

リード楽器の音色を生かして JAZZ を楽しもう！ 学習指導案

1. 題材名 リード楽器の音色を生かして JAZZ を楽しもう！

2. 対象 音楽Ⅱ 2-1、2、4組 (39名)

3. 題材設定の理由

本題材は、リード楽器の音作りや、仲間とのアドリブなど JAZZ の醍醐味を味わうことをとおして、音や音楽と深く関わる資質・能力を育成することを目指している。

サクソと同じ発音構造をもつ本楽器の特徴を生かし、JAZZらしい音色や旋律、ベンドといった音程の変化などを取り入れてアドリブをする、という JAZZ ならではのアプローチから、音楽の魅力に迫っていききたい。主な学習形態はグループ活動とし、互いに学び合いながらも生徒一人ひとりが主体的に表現や技能の追求ができる授業を展開していきたい。アドリブを支える伴奏に関しては、実際にジャズマンが練習で使用するスマートフォンアプリを使用し、デジタルながらも臨場感のある音楽的環境を整えた。また、JAZZ の文化的・歴史的背景への理解は、ブルーノートスケールやシングなど音楽の要素等と結び付け、実感の伴った知識として伝えていきたいと考えている。

以上のようにして、リード楽器と Jazz を通し改めて多様な音楽に興味・関心をもたせることで、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てることを目指していきたい。

4. 学習指導要領の内容

①A 表現(2) 器楽イ：楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して演奏すること。

②A 表現(2) 器楽エ：音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して演奏すること。

5. 実施時間(全12時間)

時	◇ねらい・学習活動◆評価
1	◇楽器の基本的な扱い方や奏法を理解する。 ・楽器の特徴、扱い方、各部の名称、道具の名称、構え方を学ぶ。 ・リード楽器の音が鳴る構造について、理解する。
2	◇楽器の音色や奏法に関心をもたせる。
3	・アンブシャと音色の関係を体感する。 ・小品を演奏しながらタンギングを学ぶ。
(指導に生かす評価) a. [ワークシート]	

4	◇楽曲のテーマを演奏できるようになる。 ・全体でテーマの練習を行う。 ◇楽曲の歴史・文化的背景を知る。 ・楽曲の元となったイングランド民謡や、JAZZ となり様々な楽器編成演奏される本楽曲を鑑賞する。 (指導に生かす評価) a. [ワークシート]
5 ・ 6 ・ 7	◇アドリブの基本構造を理解し、演奏に必要となる様々なリズムや使える音を、生徒の中にストックさせる。 ・プロの演奏を鑑賞し、アドリブに対するイメージを膨らませる。 ・テーマのリズムを分解し、1音～3音で反復や組み合わせを変えながらアドリブをする。 ・グループで、テーマのアドリブ (最初は一人2小節ずつ) ⇒テーマの順で演奏し、聴き合う。 ◇JAZZ の歴史・文化的背景を知る。 ・アフリカ特有の音感・リズムを知覚できる黒人霊歌や、他の JAZZ スタンドアートを観賞する。 (指導に生かす評価) b. [ワークシート、観察]
8 ・ 9 ・ 10	◇より広がりのあるアドリブ演奏のため、リズムや奏法のバリエーションをより増やす。 ・リード楽器特有のベンド奏法を練習する。 ・リズムやベンド奏法を組み合わせて、アドリブを吹く。 ・グループで、テーマのアドリブ (一人4小節を目安に) ⇒テーマの順で演奏し、聴き合う。 ・再度プロの演奏を鑑賞し、ベンド奏法の知覚、また自身のアドリブとの比較をしてアイデアを膨らませる。 ◇演奏発表を意識して、アドリブをある程度の形を決定させる。 ・リズムパターンを三つ以上使うこと、またベンドを必ず入れることを条件として、演奏しながら自身のアドリブのガイドラインを決定する。 ・発表と同じ条件下でのリハーサル。 ◆b. [ワークシート・観察]
11 ・ 12	◇これまでの取組を生かし、演奏を通して JAZZ を楽しむ。 ・グループ毎に演奏発表をする。テーマはグループで演奏し、アドリブは各自が考えたものを個人で披露する。 ◇本題材を振り返る。 ・ワークシートの記入。 ◆a. [ワークシート] c. [演奏]

6. 題材の評価規準

a. 音楽への関心・意欲・態度	b. 音楽表現の創意工夫	c. 音楽表現の技能
リード楽器特有の音色や奏法に対して関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。	①リード楽器から生まれる音色を知覚・感受して、その特徴を生かした音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。 ②J a z zの特徴を捉え、アドリブの中に組み込むリズムやバンド、またその効果について考えている。	①自分がイメージするリード楽器の音色を出すための技能を身に付けている。 ②自分のアドリブのイメージを表現するために必要な技能を身に付け、創造的に表している。

7. 学習指導の展開例(第9時)

(1) 本時の目標

楽器を吹きながらリズムや音などを組み替え、試行錯誤を重ねることでアドリブのバリエーションを増やし、その活動をとおして表現意図をもつ。

(2) 本時（第9時）の評価規準<1観点>

【音楽表現の創意工夫】観察・ワークシート

評価規準b	①リード楽器から生まれる音色を知覚・感受して、その特徴を生かした音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。 ②Jazzの特徴を捉え、多様なリズムやバンドをアドリブの中に組み込んでいる。
「十分満足できる」状況Aの例	音楽的な効果をねらい、多くのリズムパターンや音を選んだり、効果的な箇所をバンドを組み込んだりするなど、創造的に表現しようとしている。
「努力を要すると判断される」状況Cの生徒への手立ての例	その生徒に適したアドリブの例を教員が実際に吹いて聴かせ、イメージーションを引き出す。

(3) 9時間目の展開

指導内容	学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価
1. 本時の流れの説明	・楽器の準備。 ・本時の目標を明確に伝え、確認する。 ・グループに分かれる。	◇より良いアドリブに向けて、リズムや奏でる音のバリエーションを蓄積していく大切さを伝える。
2. ここまでの復習	・全体で一度テーマを演奏する。 ・グループで2小節ずつのアドリブを入れて演奏する。	◇技術面で気になる点を投げかけ、修正する。
3. ベンド奏法の提示	・プロの演奏から、ベンドを聴き取る。 ・見本もとに、実際にベンドを練習する。	◇まずは一番自分が吹きやすい音でチャレンジさせる。
4. ベンドを取り込んだアドリブの練習	・個人で、4小節のアドリブの中にベンドを組み込みながら試奏をする。 ・グループでお互いのアドリブを演奏し、聴きあう。	◆評価規準b（ワークシート・観察） ◇ホワイトボードに例を示す。 ◇自分が上手くできたフレーズや、他者が演奏したフレーズなど、気に入ったものがあればメモをとるように促す。
5. 本時の学習のまとめと次時の確認	・ワークシートに本時の学習のまとめと感想を書き、次時の課題を確認する。 ・片付け	◇まとめとなる11, 12時間目の演奏発表を意識させる。